

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(~~認知症対応型共同生活介護事業所~~ ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム 生きがい2 (Bユニット)	評価実施年月日	平成19/11/15
評価実施構成員氏名	淡路美紀子 山城裕子 原 志保子 高木晴子 滝上真澄 三上妙子 入野谷 美世子		
記録者氏名	大森 アヤ子	記録年月日	平成19/11/19

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	スタッフひとりずつ仕事をふりかえをし、理念を提出した。 会議をし意見交換をし全員で理念を作成した。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念を簡素化したことで共有しやすく、日々取り組んでいる。	○	ミーティングで理念を掘り下げて、地域との関わりも理念に取り入れたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	家族や地域の人々に理解してもらえるように取り組んでいる。	○	陽だまり通信を広報、啓発用として、地域の人々に伝えていきたい。 グループホームとは何か、当グループホームの事をわかってもらう。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	職員は買い物などで、少しずつ顔なじみはできていると思う。	○	普段の暮らしの中で、隣近所の人たちへ声を掛け、働きかけを職員からはじめていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域との行事には参加している。事業所と地域の人々が支えあう関係作りに職員と考えているが、交流する機会は少ない。	○	町内会の会合、地域の集まりなどに参加し、グループホームの実践を伝える。町内会費を支払って地域と情報を得ることできっかけ作りをしたい。
6	○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域との連携で、職員間で話し合う機会が少なかった。	○	認知症の方のケアを地域の方々に還元していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己、及び外部評価を実施し、意義も理解をし、具体的に改善に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議で、自己及び外部評価の結果を公表している。メンバーの意見を尊重している。運営推進会議を定期的ににはなかなか出来ていない。	○	運営推進会議の構成員を増加し、定期的に実施するようにしていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市の担当者へ、事業者から積極的な情報提供し、わからない事には助言を頂いている。	○	今後グループホームだけで悩みを抱え込んでいず、今後課題解決にむけて、協働関係を継続していきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	管理者と職員は地域権利擁護事業や成年後見制度を知っていて、利用者や家族等にも情報提供している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	いろんな機会に、高齢者虐待防止に関する理解浸透や、遵守する様に伝えているし、お互いに些細なことでも注意しあっている。		
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約に関することは同意書を得ている。契約解除に関して十分な説明をしている。家族さんの不安、疑問は説明をその都度している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見や苦情について検討が行われ、管理者が対応している。利用者本意の運営を心がけている。苦情処理簿を作り、職員にも回覧しているし、申し送りでも話し合っている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	月に一回は手紙を書いたり、金銭管理は月に1回報告をし、領収書希望の人に添付している。家族の来訪には、利用者の暮らしぶり、健康状態を伝えている。利用者の気になる点については、その都度、家族に電話で報告をしている。	○	家族さんの面会時に、職員の異動の報告をしたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情処理は、管理者が受けて、その苦情の発生要因を探り、課題を検討している。質の向上にもいかしている。苦情は少ない。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日常的に、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。それを管理者が経営者に話をしている。	○	管理者も職員ひとりひとりの思いを把握できるような機会をもっと多く作りたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	24H365日、本人を支えるローテーションを組んでいる。早出、遅出もあり、利用者の状態、ペースに合わせて職員を配置させている。行事の時は、職員はボランティアとして参加している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動や離職を必要最低限に抑える努力をしている。職員の定着率も改善しつつある。各ユニットの職員を固定化、なじみの職員によるケアを心がけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	パート職員にもヘルパー2級取得できるように勧めている。研修会にも順番に出席できるように段取りしている。	○	職員の研修を、勤務年数に合わせて年間計画を作る。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	市役所で実践者研修があり、その中でスタッフを参加させて、質の向上に励んでいる。管理者は実施指導や管理者研修などに参加させて他グループホームと交流している。	○	職員にも他グループホームと交流させる会議に出席させたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	運営者は、日常や面接時、退職したいという意向など、管理者や職員のストレスや背景を理解し、ストレス軽減できるように対応している。勤務時間中にも気分転換できる場所を工夫している。		
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	職員の労働条件を整えている。年に1回職員の健康診断を実施していて、心身の健康を保つために対応している。職員の資格取得に向けた支援をしている。	○	就業規則を作成する。
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	相談から利用に至るまでに本人自身からでなく、ご家族さんからはよく聴く機会を作っている。受け止めている。本人さんも同伴するように依頼している。本人さんも来訪する事がある。	○	面接時には、本人さんも同伴するように依頼する。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	相談から利用に至るまで面接し、また待機期間はこまめに連絡を取ってお話を聴く機会を作っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談を受けた時は、家族が疲労困ぱいしている時などで、老健施設、紹介して頂いた相談員と他サービス機関の利用もすすめている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	家族等の状況で、利用が急がれる場合が多く、本人さんの納得、安心した上でのサービス利用が導入できない場合がある。1ー2ヶ月は家族さんの協力も得て、慣れるように工夫している。利用開始1ー2か月は、密な関わりをして慣れるようにに最大限努力している。	○	利用者さんに遊びに来てもらったりする事を繰り返すことも始めたい。家族さん利用者さんに納得いく説明してもらうように協力を得たい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	本人の思い、苦しみ、喜び、不安など知ることに努め、暮らしの中で分かち合い、共に支えあえる関係を目指して努力している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	誕生祝い、行事には誘って、面会時には利用者の代弁者として、職員は家族との関わり、本人の支えていく関係を築くように努力している。 家族の役割にも配慮している。	○	利用者さんの家族の面会を待っている。 そのことを家族の事情もあるがわかって頂けるように努力する。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	家族に面会の機会を多くしてもらっている。面会時利用者さんのことを知る機会になりコミュニケーションが多くなっている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	認知症という病気があり、これまでの大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないように、家族にも働きかけをしている。	○	家族さんの理解を得て、馴染みの人や場所との関係が途切れないように努力する。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	毎日のオヤツ、食事時、グループワーク時間は、職員も一緒に多くの会話を持つようにし、利用者同士がなじみの関係ができる用に努めている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービスの利用が終了された方も行事に招待したり、遊びに来てもらうなど、継続的な付き合いできるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アルツハイマー病の人が多く、不安や不快感を抱いているので、その思いが軽減できる用にかかわっている。 また、利用者の非現実的な思いを受容しながらかかわっている。ただ自宅に帰りたい思いが強いが、グループホームも良いところであると思ってもらえるように介護に努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生育歴、生活歴、サービス利用の経過等を家人の面会時に聞き、かかわり方で参考にしている。センター方式を活用している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	利用者一人ひとりの生活リズムを理解をし、本人の全体像を把握している。 できないことよりできることに注目している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ご本人や家族には、日頃の関わりの中で思いや意見を聞き、反映させるようにしている。意見交換やモニタリングを申し送りやカンファレンスで行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画の遂行状況、効果などモニタリングするとともに利用者の状態変化、状況、家族本人の要望に応じて見直しを行っている。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別にファイルを用意し、食事、水分量、排泄等、身体的状況、本人の日々の暮らし、エピソード等を記録している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	事業所には、各種専門職がいて、音楽療法士、理学療法士、ソーシャルワーカーと連携をとり、柔軟な対応をしている。特別な外出の支援、受診移送サービス、外泊支援などしている。	○	3年経過したらショートステイも考慮している。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	民生委員やボランティア、警察、消防署には協力を得ている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	本人の希望に応じて、訪問理容サービスを利用している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に、地域包括支援センターの職員が参加し、周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係を築いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	連携病院が、当グループホームの下で、1F沢口整形外科内科です。 かかりつけ医と、管理者が看護師であり、情報のやりとりしている。院長が日に3回以上、利用者の様子を見に来ている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症による周辺症状や状態変化時には専門医を受診し、相談している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	管理者が看護師であり、連携病院は沢口整形外科病院が主であるが、看護師と判断や家族さんの意向などで脳神経外科専門医、かかりつけ医など他の医療活用の支援を受けている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	利用者が入院した場合は、家族と一緒に医院からの病状説明を受けたり、病院関係者と連携をとり、早期退院に向けて連携している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化した場合や、終末期のあり方について、家族さんやかかりつけ医と話し合って終末期の過ごし方を共有している。 主に家族さんの意向を大切にしてターミナルケアもしている。	○	ターミナルケアの指針を作成したい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度や終末期の利用者が日々より良く暮らせるためにチームとして、かかりつけ医とも相談をし、取り組んでいる。 今後の変化に備えて家族さんには十分に説明し、了解を得ている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	転院する利用者には、環境変化によるダメージが少ないように転院先と連携を取っている。必ず介護添書を渡している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねる様な言葉かけや、言動が無いように全職員に徹底化している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	利用者に合わせて、声をかけ、意思表示が困難な方には表情を読み取ったり、カードなどを使用して、本人の意思表示を確認している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本的な1日の流れは持っているが、一人ひとりの体調に配慮しながら本人の気持ちを尊重してできるだけ個性のある支援を行っている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	身だしなみを本人の思いの表れと把握をし、本人の好みを第1に優先している。月に1回理容が訪問をし、本人の望む髪型にしている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	メニューは委託業者が主であるが、アレンジしている。職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事できる雰囲気づくりを大切にしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	タバコを飲む人はいないが、水分では嗜好を考えて買い物をし、日常的に楽しめるように支援している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄のパターン、利用者のサインを見逃さず、尿失禁を少なくなるように支援している。失敗してしまった場合は、さりげなく支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴を拒む人も多くて、言葉がけや対応の工夫、チームプレイで支援している。利用者のその日の希望を確認したり、仲の良い方同士は、一緒にしたり工夫している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	なるべく日中の活動を促し、生活のリズムを整えるように努めている。寝付けない時には、添い寝したり、談話してリビングで過ごしてもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。	○	遠出の外出や、地域の行事参加等の楽しみごとを利用者と相談しながら行っていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	職員が管理しているが、家族さんが本人にお金を持たせている。お金がある安心感や、満足感に配慮はしている。	○	外出時など、お金などは自分で支払って頂ける様に、お金を手持ちする様に工夫する。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	日常的に外出する機会を多くするよう工夫している。	○	外出する機会をタイミングを見て多くしたい。玄関先にベンチを置き、日光浴をしたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	地区の祭りやイベントには参加している。家族の協力を得ている。	○	普段行けない場所に職員の調節、家族やボランティアの協力のもとで行かせたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人自らが、電話したりすることへ支援している。本人が話したい事は代弁し、電話している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	本人の馴染みの人達が、いつでも気軽に訪問できる個室があるので、居心地良く過ごせるように工夫している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の事は全職員が理解している。止む得ない場合のみ最低限に抑制する事がある。身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	職員の見守り方法を徹底している。最初から玄関は不審者の出入りのリスクを考えて、施錠方式となっている。	○	エレベーター側の施錠はフリーにしたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は利用者と同一空間にいて、さりげなく全員の状況を把握している。夜間は数時間後とに見守り、物音がしたらすぐに居室に行っている。夜間の休憩は居室が見通せる場所で休んでいる。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	利用者の状況に合わせて、注意が必要な物品は何かを職員で把握し、管理方法を決めている。厳重に管理すべきものは、利用者が手に届かない場所に置いてある。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為、マニュアルを作ったり知識を徹底化、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。ヒヤリ・ハット記録をし、事故報告書を作成し、今後の予防対策を検討している。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	全ての職員が救急、救命法等の学習や訓練を定期的に行っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防署からも指導を受けて、グループホーム内での訓練をしている。	○	隣近所の協力をお願いしたり、自治会に依頼したい。
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて把握しており、家族等に対して対応策を説明し、相談もしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	一人ひとりの体調の変化、少しでも食欲、顔色、便の性状、などいつもと違う事は職員が把握し、看護師へ報告をし、変化をチャートにつけている。状況により受診に結び付けている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬ファイルや処方箋コピーをケースに整理し、温度板にも記録しており、職員が内容を把握している。確認と薬している。薬の処方箋は申し送り、温度板にも記録をし、医療機関との連携を図る。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	繊維質の多い食材や、乳製品、水分を多く取るようにしている。身体を動かすようにし、自然排便ができる様に取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	口の中の汚れや、臭いが生じないように、一人ひとりの力に応じた歯磨きの手伝いをしている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事や水分摂取状況を毎日チェックしている。嗜好を考慮し、提供している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウィルス等)	事業所内で起こり得る感染症について、マニュアルを作成し、職員で学習し予防対策に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	まな板やふきん等は、毎日漂白し、時には日光浴をし、清潔を心がけている。冷蔵庫も点検掃除している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	入り口に手作りの案内板を掲示している。	○	入り口にベンチを設置したい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有のリビングは居心地の良さや生活感や季節感あるものを活用している。利用者も入眠以外はリビングで過ごす人がほとんどである。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングが広くて、小上がりもあり、一人で過ごしたり仲の良い利用者同士でくつろげるスペースを作っている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室は家族の用意した新品家具でなく、馴染みのものや使い慣れたものを用意をし、本人が居心地良く過ごせるように家族さんにも協力を得ている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなくよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	フロアは、換気に心がけて利用者さんの状況をみて温度調節している。(集中冷暖房である)		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者の状況に合わせて、手すりや浴室、トイレ、廊下など安全確保と自立への配慮している。(バリアフリーにしている)		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	利用者は、些細なことでADLを低下することもあり、その都度スタッフで話し合い、混乱や失敗を防ぎ、ADL維持できる様に工夫している。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	建物の外回りやベランダがあるが、利用者さんが園芸を好む方があまりないので積極的な活用はできていない。	○	建物の外回りやベランダの積極的な利用を考えている。

V. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2／3くらい ③家族の1／3くらい ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き生きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2／3くらいが ③職員の1／3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2／3くらいが ③家族等の1／3くらいが ④ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載）

自分の事は自分ですること。認知症による不安感、不快感及び孤独感を少なくし、精神的なフォローを心がけて個別対応し、一人ひとりの関わりを大切に日々スタッフ同士連携を取っている。
 1F沢口整形外科内科で健康管理に努めて、またリハビリ室があり、利用者が月～土まで施行する人が多い。家族さんと何度も話し合いターミナルケアにも取り組んでいる。院長が1日に3回以上、グループホームの利用者の様子を見に訪問し、利用者、家族に安心感を与えている。